製品名: サイトケラチン 14/16 ウサギポリクローナル抗体
カタログ番号: APRab09727
研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20℃で保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	52kDa

抗原情報

遺伝子名	KRT14/KRT16
別名	KRT14; Keratin; type I cytoskeletal 14; Cytokeratin-14; CK-14; Keratin-14; K14; KRT16; KRT16A; Keratin, type I cytoskeletal 16; Cytokeratin-16; CK-16; Keratin-16; K16
遺伝子 ID	3861/3868/3872
SwissProt ID	P02533/P08779
免疫原	抗血清はヒトケラチン 14 由来の合成ペプチドに対して作製された。AA 範囲：1-50

背景

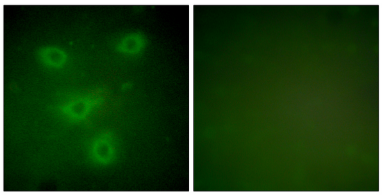
この遺伝子は、中間径フィラメントの中で最も多様なグループであるケラチンファミリーのメンバーをコードしています。この遺伝

子産物であるＩ型ケラチンは、通常、２つのケラチン５分子（II型ケラチン）とヘテロ四量体として存在します。これらは一緒に上皮細胞の細胞骨格を形成します。これらのケラチン遺伝子の変異は、単純性表皮水疱症と関連しています。少なくとも １つの偽遺伝子が 17p12-p11 に同定されています。[RefSeq 提供、2008 年７月]、疾患：KRT14 の欠陥は、ダウリング・ミーラ型単純性表皮水疱症（DM-EBS）の原因です[MIM:131760]。 DM-EBS は、表皮内表皮水疱症の重症型であり、全身性のヘルペス状水疱、稗粒腫形成、爪異栄養症、粘膜障害を特徴とする。,疾患：KRT14 遺伝子の欠損は、ケブナー型単純性表皮水疱症（K-EBS）[MIM:131900]の原因である。K-EBS は、全身性の皮膚水疱を特徴とする表皮内表皮水疱症の一種である。その表現型はダウリング・ミーラ型と根本的に異なるものではないが、重症度はダウリング・ミーラ型より低い。,疾患：KRT14 遺伝子の欠損は、ウェーバー・コケイン型単純性表皮水疱症（WC-EBS）[MIM:131800]の原因である。 WC-EBS は、皮膚の掌側および足底部に限局した水疱を特徴とする表皮内表皮水疱症の一種です。,疾患：KRT14 遺伝子の欠陥は、網状色素性皮膚症（DPR）[MIM:125595]の原因です。DPR は、生涯にわたって持続する網状色素沈着、非瘢痕性脱毛症、および爪異栄養症を特徴とするまれな外胚葉性異形成症です。,疾患：KRT14 遺伝子の欠陥は、常染色体劣性単純性表皮水疱症（AREBS）[MIM:601001]の原因です。 AREBS は、足の背側、外側、足底に局所的な水疱を特徴とする表皮内表皮水疱症です。疾患：KRT14 遺伝子の欠損は、ネーゲリ・フランチェスケッティ・ヤダソン症候群（NFJS）[MIM:161000]の原因です。ネーゲリ症候群とも呼ばれます。NFJS は、まれな常染色体優性遺伝の外胚葉異形成症です。主な特徴は、皮膚紋理（指紋）の欠如、網状皮膚色素沈着（炎症段階を経ずに２歳頃から始まる）、掌蹠角化症、汗腺機能低下を伴う発汗減退、熱刺激による不快感、爪異栄養症、歯のエナメル質欠損である。,機能：非らせん尾部ドメインは、KRT5-KRT14 フィラメントが大きな束に自己組織化することを促進し、in vitro におけるケラチン中間径フィラメントの弾力性に関わる機械的特性を高める。,その他：細胞骨格ケラチンとミクロフィブリルケラチンには、Ｉ（酸性、40～55 kDa）とII（中性～塩基性、56～70 kDa）の２種類がある。,類似性：中間径フィラメントファミリーに属する。,細胞内局在：細胞質と細胞膜の両方で、フィラメント状のパターン。,サブユニット：２つのＩ型ケラチンと２つのII型ケラチンからなるヘテロ四量体。ケラチン 14 はケラチン５と会合する。TRADD およびケラチンフィラメントと相互作用する。他のＩ型ケラチンと会合する。,組織特異性：基底層で検出され、より先端側の層、特に有棘層、顆粒層では低下するが、角質層では検出されない。成長期毛包の外毛根鞘で強く発現するが、発芽基質、内毛根鞘、または毛髪では発現しない。休止期には毬毛を取り囲むケラチノサイトで見られる。,

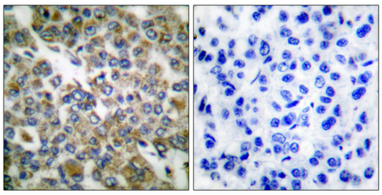
研究分野

-

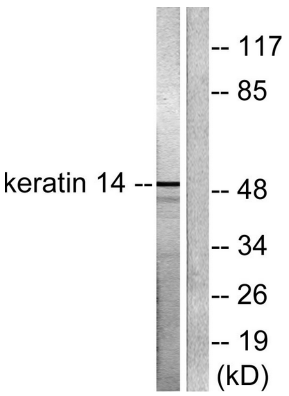
画像データ



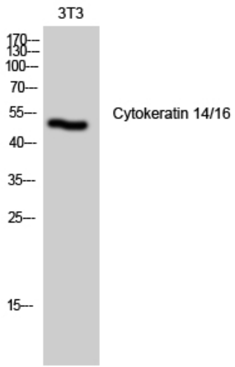
ケラチン 14 抗体を用いた NIH/3T3 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



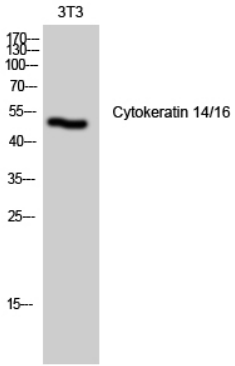
ケラチン 14 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



NIH/3T3 細胞ライセートのケラチン 14 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



1：1000 希釈のサイトケラチン 14/16 ポリクローナル抗体を用いた 3T3 細胞のウェスタンブロット解析



1：1000 希釈のサイトケラチン 14/16 ポリクローナル抗体を用いた NIH-3T3 細胞のウェスタンブロット解析